

JA全農 とくしま情報

地域の話題や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2024
7月号
No.777



吉野川市農林業まつりで出店した各ブースの様子

マンスリーレポート 2

- ・阿波市で「阿波山田錦」田植え交流会
- ・令和6年度農産物検査員育成研修会開講
- ・令和6年度徳島県蓮根消費拡大協議会総会
- ・令和6年度徳島県甘藷消費拡大協議会総会
- ・吉野川市農林業まつり
- ・徳島大学で特別授業
- ・JA徳島県藍住農機SCで農機展示会開催
- ・静岡製機株式会社「乾燥機」研修会
- ・東京の小学生がなると金時(サツマイモ)食育学習

交通安全のお知らせ 6

- ・令和6年度交通マナーアップ推進県民運動

旬の野菜でうちごはん 7

- ・生姜と人参のきんぴら

トピックス 8

- ・営農コラム

マンスリーレポート

～高品質な酒米づくりを実践～

阿波市で「阿波山田錦」田植え交流会

6月16日、JA徳島県あわ市営農経済センター管内の圃場やバーベキュー会場で、酒造好適米「阿波山田錦（あわやまだにしき）」の田植え体験およびバーベキューが開催され、全国の酒米ファンや酒蔵、阿波山田錦生産部会、JA・当県本部職員など約100名が参加しました。（主催＝阿波山田錦をもっと飲まん会実行委員会）

約4㍍の圃場で、参加者はJA職員から指導を受けながら、汗を拭い一株一株丁寧に苗を手植えしました。初めて田植を体験された方は「足元が不安定なので大変」と笑顔で話してくれました。

田植え終了後、バーベキュー会場に場所を移し、阿波山田錦で醸されたお酒と阿波の食材を堪能する「阿波山田錦をもっと飲まん会」を初開催し、産地・酒蔵・消費者の交流を活発におこないました。また阿波山田錦のおにぎりも準備され「珍しいですね。大粒で美味しい」と喜んでいただきました。

JA徳島県（旧JAあわ市）では、平成7年（1995年）から品質を重視した阿波山田錦の本格的な栽培に取り組んでいます。酒蔵と生産者、JAがお互いの顔が見える信頼関係の中、高品質な酒米づくりを実践しています。



あいさつをする阿波山田錦部会・福井英利部会長



あいさつをするJA徳島県・橋本浩代表理事組合長



阿波山田錦の田植えを行う参加者

～信頼される農産物検査員の養成へ～

令和6年度農産物検査員 育成研修会開講

6月17日、徳島県JA農産物検査協議会（会長＝JA東とくしま・高井紀明参事待遇）と当県本部は、徳島県JA会館会議室で「令和6年度農産物検査員育成研修会（基礎課程）」を開講しました。

当研修会は農産物検査員の確保・養成を継続し、県産米のブランド化を確立していくことを目的として毎年開催しており、本年度は、県内の3JAと当県本部の職員11名が、同会議室で6月17日から7月22日までの間で計14回受講します。

開講式では、当県本部米穀畜産部の西川伸哉部長が「農家組合員や消費者から信頼される検査員になれるよう研修に臨んでいただきたい」とあいさつをおこないました。

研修会では、同協議会の藤江幸一講師や一般財団法人日本穀物検定協会の杉山功講師から農産物検査員の職務や心得についての講義を受けたり、農産物分析や鑑定実習などの基礎課程講習に取り組み、農産物検査員としての知識や技能、検査方法などを学びます。



開講式であいさつをする米穀畜産部の西川伸哉部長



鑑定実習に取り組む受講者

～徳島県産蓮根のイメージアップと消費拡大へ～

令和6年度徳島県蓮根消費拡大協議会総会

6月20日、徳島県蓮根消費拡大協議会(会長＝坂本雅彦県本部長)は、徳島県JA会館会議室で県内JA、徳島県、県内市町村、卸売市場、当県本部より関係者27名出席のもと「令和6年度徳島県蓮根消費拡大協議会総会」を開催しました。

同協議会は、徳島県産蓮根の消費拡大を促進し、蓮根生産農家の経営安定と発展を図る活動に取り組んでいます。

総会では、▽令和5年度事業報告および収支決算 ▽令和6年度事業計画(案)および収支予算(案)が審議され、満場一致で承認されました。

また、意見交換ではJA担当者から「今年は宣伝資材のレシピを変更してはどうか」「JAでも配布できるような資材を制作してほしい」といった意見や要望が聞かれました。

なお、令和6年度事業計画の主な取り組みは以下のとおりです。

- 業務関係に向けたメニュー提案と販促キャンペーンの実施
- 関西圏の商業施設レストランでのフェア実施
- 料理教室とタイアップ
- 新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどマスメディアや交通広告を通じたPR



坂本雅彦会長による開会のあいさつ



広報誌のレンコン特集ページやYoutubeを確認する出席者

～徳島県産甘藷の認知度向上と消費拡大を図る～

令和6年度徳島県甘藷消費拡大協議会総会

6月25日、徳島県甘藷消費拡大協議会(会長＝村上哲副本部長)は、徳島県JA会館会議室で、県内JA、徳島県、卸売市場、当県本部より関係者20名出席のもと「令和6年度徳島県甘藷消費拡大協議会総会」を開催しました。

同協議会は、徳島県産甘藷の消費拡大を促進し、甘藷生産農家の経営安定と発展を図る活動に取り組んでいます。

総会では、▽令和5年度事業報告および収支決算▽令和6年度事業計画(案)および収支予算(案)が審議され、満場一致で承認されました。

なお、令和6年度事業計画の主な取り組みは以下のとおりです。

- マネキン等を利用した量販店での消費宣伝の拡大
- 徳島県産青果物とのタイアップ(徳島県産フェアの実施、メニュー開発)
- 県内外での小学生等を対象とした食育活動の実施
- SNS(Instagram、Youtube等)を利用した消費宣伝
- 料理教室とタイアップ
- 首都圏及び関西圏の商業施設レストランでのフェア実施



村上哲会会長による開会のあいさつ



会議の様子

マンスリーレポート

～徳島県産農産物や飲料の魅力を発信～

吉野川市農林業まつり

6月16日、当県本部は、吉野川市役所のイベント広場で開催された「吉野川市農林業まつり」(主催＝吉野川市・徳島北部森林組合・JA徳島県吉野川営農経済センター)にブース出店しました。ブースでは徳島県産飲料の販売や甘々娘を使用したデコ巻きずし体験を実施し、県産農産物や飲料、当県本部の食育活動をPRしました。また、徳島農機事務所と井関農機による直進アシストトラクターの展示や実演もおこなわれ、子どもたちが熱心に見学をしていました。

このイベントは、吉野川市市制20周年の記念事業として、農林業の振興を図ることを目的として、各種関係団体と連携し開催されたもので、他にはスイートコーン収穫体験や木工教室、VR伐採体験など、親子で楽しめる催しが多く、たくさんの来場者で賑わいました。



吉野川市・原井敬市長による開会のあいさつ

ステージ上では、吉野川市・原井敬市長やJA徳島県・前田洋治常務理事による開会のあいさつがおこなわれた後、鴨島鳳翔太鼓のパフォーマンスや丸太切りにチャレンジ!などで大変盛り上がりしました。また、すだち大使の平石静香さんが徳島すだちのGI取得やすだち飲料についてPRしました。ブースで販売された県産飲料のザすだちと徳島すだち微炭酸は「爽やかで美味しい」と人気を集め完売しました。



あいさつをするJA徳島県・前田洋司常務理事



親子でデコ巻きずし作りを楽しむ様子



甘々娘を使用した花のデコ巻きずしを調理



すだち飲料も完売!

～大学生に徳島県の農業を知ってもらおう～

徳島大学で特別授業

6月7日、当県本部は大学生に徳島県の農業のことをもっと知ってもらおうと、徳島市の徳島大学で総合科学部地域創成コースの学生15名を対象に「中山間地域における持続可能な農業と土地利用」をテーマに特別授業を実施しました。

当県本部の宮田卓次副本部長と営農資材部・吉本和正次長が、徳島県の主要農産物や農業産出額の説明、また、農業を支援する組織としてJAグループの役割や当県本部の事業内容を学生にわかりやすく説明しました。

最後に徳島県農業の抱える課題への対応策について、学生からは「新規就農者の支援策」や「環境配慮型農業」等の質問があり、活発な意見交換がおこなわれました。

今後も当県本部は教育機関に出向き、専門的な内容や通常授業では取り扱わない分野の内容を、先生に代わり分かりやすく教える特別授業を実施し、学生が将来像をイメージするお手伝いや農業を身近に感じてもらう活動として続けてまいります。



大学生にわかりやすく説明をする
宮田卓次副本部長(手前)と吉本和正次長



活発な意見交換がおこなわれました

～農作業を応援、農機の展示販売～

JA徳島県藍住農機SCで農機展示会開催

6月14日～15日、JA徳島県藍住農機SCで「農機展示会・商談会」(主催＝JA徳島県)が開催されました。

展示会場には、トラクター、コンバインなどの大型農機や小型機械などが展示され、来場された生産者は実際に農機に触れたり、JA担当者や全農本所徳島農機事務所職員に熱心に質問し、機能や特徴を確かめていました。

また、敷地内の圃場では各種農機の試乗体験を実施したり、来場者への記念品プレゼントもあり、期間中多くの生産者が次々と訪れていました。



農機展示会の様子



大型農機の説明を受ける来場者



圃場で試乗体験

～知識や技術を習得しスキルアップへ～

静岡製機株式会社「乾燥機」研修会

6月19日、全農中四国広域農機事業所徳島農機事務所は、当県本部会議室および中央農機整備センターで乾燥機研修会を開催し、JA農機担当職員や同事務所職員など23名が参加しました。

この研修会は、稲刈り後に利用する乾燥機などの農業機械に関する知識や技術の習得をおこない、担当職員の業務推進に活かすことを目的として開催したものです。

研修会では、静岡製機株式会社の担当者から製品説明を受けたり、乾燥機や色彩選別機の実機研修や質疑応答、搬送や設置時の確認、点検・故障・修理にかかる対応まで、幅広い内容を受講しました。

参加者は、実際に分解されたバーナーや水分計、玄米保冷库ユニットを使用し故障箇所の確認をおこなうなど、熱心に知識習得と修理技術の向上を図り、一層のスキルアップをめざしました。



中央農機整備センターで実機の研修



開会のあいさつをする
徳島農機事務所・橋本康祐所長



静岡製機株式会社の担当者による説明

4本柱で支える包装資材の総合メーカー



クラフト紙袋



ポリエチレン袋



フレキシブルコンテナバッグ



クロスラム



佐藤産業株式会社



マンスリーレポート

～栽培体験を通して食の大切さを伝える～

東京の小学生がなると金時 (サツマイモ)食育学習

当県本部園芸部は、子供たちに農産物を育てる大変さと喜び、また食べ物を大切に作る心や農家生産者の方々を思いやる気持ちを育んでもらうため、県内JAをはじめパートナー市場や関係機関と連携し、定期的に小学校での栽培学習会を実施しています。

6月12日には、JA里浦、東京シティ青果株式会社、徳島県東京本部協力のもと、東京の江東区立豊洲小学校2年生を対象に「なると金時栽培学習会」を開催しました。生徒はJA里浦の平田敏代表理事組合長からなると金時の苗を受け取った後、同JAの豊田修三職員よりなると金時の特徴や苗の植え方、上手な育て方についての講義を受けたり、実際に圃場に出て植え付け作業を体験しました。

生徒たちは熱心に講義を聞くなど、なると金時に大変興味を示し、圃場では平田組合長らの指導のもと、全員上手に植え付け作業をおこなうことができました。最後に生育期間における水やり、草むしりなどの栽培管理を生徒たちにお願ひし、学習会を無事終えることができました。10月下旬頃に収穫体験を実施する予定です。



生徒になると金時の苗を贈呈するJA里浦・平田敏代表理事組合長



圃場で苗の植え付けを指導

交通安全のお知らせ

令和6年度交通マナーアップ推進県民運動

県民一人一人が、人優先の交通安全思想を基本として、「ゆずる心」と「待つゆとり」を持ち、交通ルールの遵守と交通マナーの向上に努め、実践することにより交通事故の防止を図ることを目的とした県民運動が開催されます。

1 期間

令和6年7月1日(月)から7月31日(水)まで

◎県下一斉シートベルト着用キャンペーン等の実施7月19日(金)

2 運動の重点

県民ドライバーの交通ルールの遵守と交通マナーの向上

～交通事故防止に向けたマナーアップの推進～

3 推進項目

○横断歩行者保護等交通マナーの向上

車のドライバーは、歩行者優先の気持ちを持って、思いやりのある安全運転を心がけましょう。

歩行者の方は、近くに横断歩道がある場合は、横断歩道を利用しましょう!飛び出しや斜め横断は危険です!絶対にやめましょう。また、夕暮れ時の外出は、反射材用品を着用し、自分の存在を周囲に知らせてください。

○全ての座席におけるシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

車に乗る際は、シートベルトを正しく着用するとともに、同乗者にもシートベルト等を着用させましょう。

シートベルトは命を守ってくれる命綱です!

○自転車安全利用の促進

自転車は車の仲間です。信号無視や携帯電話の使用、傘差し運転等は絶対やめましょう。

令和5年4月1日から自転車のヘルメット着用の努力義務化が定められています。ヘルメット非着用で自転車事故により亡くなった方の半数以上は、頭部を損傷しています。ヘルメットの頭部保護効果は大きく、生死を分けるということを忘れず、自転車に乗る際は必ず、ヘルメットを着用してください。

交通マナー アップ宣言

わたしたちは

- 1 歩行者の保護に努めます。
- 2 全席でシートベルトを必ず締めます。
- 3 自転車乗車時はヘルメットを着用します。

徳島県警察本部 交通企画課





生姜と人参のきんぴら



▼材料(2人分)

生姜 …………… 2片 (30g)
 人参 …………… 2/3本
 黒ごま、ごま油 ……… 各大さじ1

A { 濃口醤油…………… 小さじ2
 みりん…………… 小さじ2
 砂糖 …………… 小さじ2

▼作り方



① 生姜は縦の千切りにする。



② 人参も縦の千切りにする。



③ ①と②をごま油でしんなりと炒め、Aを加えて炒り煮をし、黒ごまを振る。

POINT

繊維に添った縦切りにすると歯ごたえや香りが出る



料理研究家 HITOMI <https://hitomi-cook.com/>

◎免許：調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー
 ◎賞：2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴：TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演／ラジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント：大阪ガスハグミュージアムにて鰻を使った爽やか料理講習会／大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習会 ◎カルチャー講師：兵庫イオンカルチャー（姫路、加古川、明石の3店舗）講師／神戸市立長田区勤労センター、神戸市立西區民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など

営農コラム

今年の夏は暑さに注意

営農支援課 技術主管 隔山 普宣

4月10日、気象庁は「昨年の春から続いていたエルニーニョ現象は終息したとみられる。今後、秋にかけて平常の状態が続く可能性もあるが(40%)、ラニーニャ現象が発生する可能性の方がより高い(60%)。」と発表しました。

また、5月21日に気象庁が発表した3か月予報では、西日本の6～8月にかけて、気温は高め、降水量は平年並みか多い予想となっています。すでに梅雨時にゲリラ豪雨や線状降水帯が発生しています。

そして8月になると、ラニーニャ現象が発生する可能性が高まっています。その影響で太平洋高気圧が強まり、日本では暑い夏となる可能性が高くなっています。

また、気温が高くなると、空気中に含むことができる水蒸気の量が多くなり、一度に降る雨の量も多くなりやすく、今年の夏は雨が降るときは豪雨になり、降らない時は猛暑になる可能性があります。

そこで気をつけたいのが、熱中症です。

熱中症になると、軽い症状は、めまい、立ちくらみ、筋肉痛、汗がたくさん出たりします。中くらいの症状は、頭痛、吐き気、体がだるいなどの状態。重症は、意識がない、けいれん、汗をかかず体温が高くなる、まっすぐ歩けないなど、深刻な状態に陥ります。

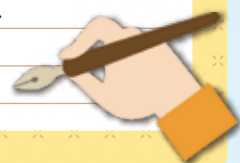
熱中症になる場所については、住宅内が一番多く、室内での熱中症対策のポイントは、①部屋に温度計を置き、温度と湿度をチェック、②朝までエアコンをつけっぱなしに、③枕元に常温の水を、起きた時には飲むことです。

屋外の農作業時にも、こまめな水分補給と休息、暑い時間帯の作業を避けるなどの対策が必要です。

もし熱中症になってしまったら、涼しい場所に移して、すぐに体を冷やすことが重要です。特に皮膚近くで太い血管が流れている場所、首や脇の下、足の付け根あたりを冷やすのが効果的です。

また、農作物の高温対策としては、オクラ、ナスなどの果菜類は、老化葉や病害葉は早めに摘除するとともに、摘葉、摘芽、摘果をこまめに行います。樹勢低下を防ぐため、液肥の施用により養水分を有効に確保します。マルチの上や通路に、敷きわら・敷き草等を行います。かん水は夕方に行い、うね間に停滞しないようにします。育苗中の野菜は日中遮光を行い、かん水は午前中を中心に行います。

気象庁のホームページで気温等の予報を見ることができます。天気予報で高温が予報される場合は、農作物の高温対策や熱中症対策を早めに行いましょう。



うちんくのペット

ホッと一息 可愛いペットで癒されましょう♪



ワタシ、ちょっとペロが出ちゃうの

ネザーランドドワーフ
松田 もふ (♀・5歳)性格
荒々しい趣味
柵かじり好きなもの
イチゴ

ジューーーーーっ

チンチラ 松田 ふく (♂・2歳)

性格
マイペース趣味
脱走好きなもの
おやつ

※うちんくのペットに掲載ご希望の方は、JA全農とくしま広報室(TEL088-634-2462)までご連絡ください。

令和6年度 全農徳島県本部OB会総会

6月24日、全農徳島県本部OB会は「令和6年度全農徳島県本部OB会総会」を徳島市内のホテルで開催し、会員など34名が出席しました

総会では、大西公宏OB会会長のあいさつの後、慶弔基準により満80才を迎えた三木正光氏・河野尚美氏・平井正之氏の3名に記念品の贈呈をおこないました。



OB会総会の様子

続いて、①令和5年度事業実績および収支決算②令和6年度事業計画および収支予算③会則・役員選出基準の見直しについての協議がおこなわれ、出席者全員一致で承認されました。

総会に引き続き開催された懇親会では、大西会長の音頭で乾杯をおこない、1年ぶりの再会に会話も弾み、楽しいひとときを過ごしました。



80歳のお祝いの記念品を贈呈

園芸部

～徳島県産トウモロコシと枝豆を紹介～

四国放送ラジオ「となりのラジオ」でPR

6月6日、四国放送ラジオ「となりのラジオ」(毎週月曜～金曜 午後1時20分から放送)に生産者やJA職員、当県本部園芸部職員が出演し、徳島県の美味しいトウモロコシと枝豆を紹介しました。

四国放送の宗我部英久アナウンサーと黒川麗海アナウンサーがラジオカーで「ひまわり農産市鴨島店」を訪れ、同店の大島和雄店長やJA徳島県・佐藤大樹職員、当県本部園芸販売課・飯田旺輝職員にインタビューし、県産トウモロコシについて今年の出来や美味しい食べ方を紹介し、リスナーにトウモロコシをPRしました。

続いてラジオカーはJA徳島市予冷センターに場所



JA徳島県ひまわり農産市
鴨島店でスイートコーンのPR

を移し、同JA枝豆統一部会・前川久部会長と藤川真澄課長にJA徳島市独自ブランドの「あわっちゃ豆」について風味や保存方法などをリスナーにわかりやすく説明

していただきました。

また、スタジオではJA徳島市・佐藤宏樹課長代理やJA徳島県・仁木宏則課長、当県本部園芸販売課・柿沼秀爾職員が徳島県内それぞれの産地のトウモロコシと枝豆の特徴や栄養素について説明したり、「トウモロコシと枝豆あれこれ」というテーマでリスナーから寄せられた質問(選び方や保存方法)に対し丁寧に答えました。

当県本部は、旬の農産物を消費者に美味しく食べていただくため、様々な媒体で情報を発信していきます。

JA全農とくしまHPLレシピ集ページは、こちらからご覧になってください。



JA徳島市予冷センターで枝豆について説明をする前川久部会長



四国放送ラジオ スタジオの様子



農薬を適正に使用して 『農作物・生産者・環境』の 三つの安全を守りましょう

安定的な生産のために農薬は必要な資材です、適切に使いましょう
農薬は、病害虫・雑草への効果だけでなく、農作物への薬害や残留、環境影響などについて安全性が確保できるよう使い方が決められています。安全に使うために地域での連携を大切にしましょう。

農薬が飛散（ドリフト）しないように注意して使用しましょう

農薬は、剤型や風、散布器具と作物の距離、散布圧力などによって、目的とする作物以外の農作物に飛散することがあります。飛散（ドリフト）は、周辺作物への薬害、残留基準値をオーバー、近隣住民や環境への悪影響につながるため、以下の点に注意して農薬散布をしてください。

- 風の強い日や上昇気流が起こりやすい日中の散布は避けましょう。
- できるだけ作物の近くから散布しましょう。
- 粒剤等の飛散しにくい剤型やドリフト低減ノズルの使用などに努めましょう。
- 圃場の内側に向かって散布し、特に圃場の端での散布には注意しましょう。

風が吹いたら散布しない!!



飛散の少ない ノズルを使用する

慣行ノズルと飛散低減ノズルの違い



農薬を適正に使用していても 思いがけない事故 が起こることも

農業を取り巻くさまざまな賠償リスクを **幅広く保障** する

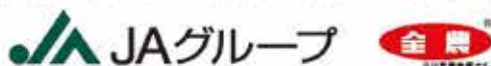


※詳しくはお近くのJAへお問い合わせください。

JA共済ホームページアドレス
<https://www.ja-kyosai.or.jp>



基本を守って、農作物の安全・生産者の安全・環境の安全を徹底します。





徳島の なし

シャリッ
と
ジュワッ
と
たまごころです

JA全農とくしま・徳島県なし消費拡大協議会



幸水は酸味が少なく甘みが強く、果肉はやや柔らかめの食感らしい。食感で、特有の風情があります。
豊水は幸水よりさらに多量です。ほどよく酸味があるのも特徴。幸水に比べることもできます。
幸水は7月中旬から8月中旬、
豊水は8月中旬から9月中旬まで出荷しています。



JAタウン
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま
Instagram



JA全農とくしま
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋** になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は
無料です。送付先の氏名・住所変更や、
送付の停止につきましては、
JA全農とくしま企画管理課広報室
(電話 088-634-2462)
までご連絡ください。

